

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第1回検討委員会 議事要旨

【日時】 令和2年10月7日(水) 18:30~20:15

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

検討委員会委員(8名)

所属/役名等	氏名(敬称略)
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
札幌駅前通まちづくり株式会社/ 統括マネージャー	内川 亜紀
北海道大学大学院工学院/教授	小澤 丈夫
株式会社アークス/ ゼネラルマネージャー代理	佐藤 直樹
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
北星学園大学 経済学部/教授	鈴木 克典
北門信用金庫/篠路支店長	森 雅哉
JA さっぽろ/篠路支店統括支店長	渡邊 直樹

※五十音順

オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	高松 幸一

事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	長南 成明
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	若林 裕也
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	岩浅 瑛大

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会(挨拶、開催趣旨の説明)
- 自己紹介

2 議事

- 資料説明
 - 検討委員会の設置要綱について 資料1
 - 委員長・副委員長の選任
 - 地区の現況・まちづくりの方向性について 資料2
 - ◇ 計画策定の背景
 - ◇ 篠路駅周辺地区の現況
 - ◇ まちづくりの方向性(たたき台)
 - ◇ 第1回地域協議会でのご意見
- 意見交換
 - 計画策定に関する視点について
 - 地区の現況、方向性について

3 おわりに(事務連絡など)

【議事要旨】

1 はじめに

○ 開会(挨拶、開催趣旨の説明)

(事務局)

- ・篠路駅周辺地区では、今後、鉄道高架事業や土地区画整理事業などの社会基盤整備が進んでいく。札幌市としては、篠路のまちづくりを公共事業で終わらせるのではなく、民間企業等による低未利用地の有効活用や、地域が主役となったまちづくり活動の維持・発展により、もっと住みやすいまちとなっていくことを期待している。そこで、こうしたテーマを中心に据えた新たなまちづくりの方向性を検討していくにあたって、委員の皆様方それぞれのお立場からご意見をいただきながら、計画を策定していきたいと考えている。
- ・まちづくり計画というと、行政が何かをやる計画として作られることが多いが、篠路においては、地域の皆様方が「まちをどう使いたいか」、「どんなことがしたいか」という視点にも力を入れて、まさに地域が主体となって継続したまちづくりが進められるよう、地域と行政が協働の姿勢で作りあげていきたいと思うので、そういう観点でもご意見をいただきたい。
- ・検討委員会と並行して、地域の代表者などから構成する地域協議会も立ち上げているが、今年度から来年度にかけて各5回程度の開催を予定している。

2 議事

○ 資料説明

➤ 委員長・副委員長の選任

委員長として北星学園大学経済学部の鈴木教授、副委員長として篠路地区街づくり促進委員会の井形会長を選任した。

➤ 地区の現況・まちづくりの方向性について

◇ 計画策定の背景

(事務局)

(計画の目的)

- ・篠路駅周辺地区は篠路村の時代から始まり、北区北部地域の中心として栄えてきた地域である。札幌市のまちづくりの上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」でも「地域交流拠点」として位置づけられており、地域の生活を支える主要な拠点としての役割が期待されている。
- ・社会基盤が弱い駅東側駅前や横新道の慢性的な混雑、鉄道による地区の東西分断が課題となっており、こうした課題の解決を目指して過去にもまちづくりの計画が策定されており、今後、社会基盤整備が進んで

いく。地区のまちづくりを社会基盤整備で終わらせるのではなく、これを契機と捉えて、市有地や駅前を活用した賑わいづくりや地域主体のまちづくり活動を通じて、もっと住みよいまちになっていただきたい。そこで、今回はこれらをテーマに据えて、今後のまちづくりの方向性、展開を示すものとして、新たなまちづくり計画を作っていきたい。

(計画の位置づけ)

- 過去の計画は社会基盤整備を中心とした内容で、H13年度にまちづくり事業計画、H25年度にまちづくり実施計画がそれぞれ策定されている。今回の計画では、上位計画や他の分野別計画などと連携整合を図りながら、社会基盤整備と並行して取り組むこととして、駅前や市有地の利活用、地域主体のまちづくり活動について、方向性を示していきたい。

(篠路駅周辺地区とまちづくり重点エリア)

- 駅前街区と市有地を中心に、駅前エリア、東エリアの2つのエリアを「まちづくり重点エリア」として位置付けたい。立地特性や土地の所有形態から考えても、別々の性質をもつエリアとしてそれぞれ方向性を決めることが適切かと考えた。駅前エリアと東エリアは相互に連携し、相乗効果を生み出せるように進めていきたい。
- 駅前エリアの中でも、エリア全体として考えていくことと、エリアの中心にある駅前街区で考えていくことでは、内容が少し異なると思うので、計画をまとめる際には留意したい。
- 市有地は、民間事業者の意向に左右されるが、ある程度、地域や行政の想いを受け止めて、駅前よりも利活用に踏み込んだ書き方ができる可能性があると考えている。
- すでに開発が進んだ西側エリアとの連携も考慮する。

(札幌市の現時点での考え方)

- 駅前エリアは、駅前街区を中心に、駅利用者や地域住民の利便性が高まる場、交流や滞在によるにぎわいの場の創出に向けた方向性を示したいと考えているが、実現するための具体的な手段として、民間開発を目指すのか、別の手法を探っていくのかは、今後検討していく。
- 現時点で駅前での開発に前向きな民間事業者は多くない。また、留意点として、駅前はあくまでも民有地なので、計画のなかでは「エリアとして期待されること」としてまとめる。
- 市有地を含む東エリアは、地域の魅力を高めるような活用方策を検討。例えば、市が土地を賃貸あるいは売却して、民間に開発していただくことが考えられる。まちづくりに資する開発にしていきたいので、一般競争入札のように金銭条件だけで決めるのではなく、今回のまちづくり計画で土地利用の方向性を定めて、これを条件としたプロポーザルの

実施などを検討していく。周辺には既に様々な施設があり、調和・連携も重要になる。また、市有地そのものも一部暫定利用されており、そこをどうするのかも踏まえて検討していく。

- 地区全体におけるまちづくり活動は、既存の活動の維持発展のほか、今後整備される駅前広場や街区公園、開発により創出される可能性のあるオープンスペースなどの空間を活用した活動・取組も議論したいと考えている。ただし、活動の主役はあくまでも地域なので、行政が押し付けるのではなく、地域が望み、担える活動・取組であることが大前提である。

(まちづくりロードマップ案)

- 市有地は、例えば民間開発を行う場合、最短で進めば 2022 年度から 2023 年度にかけて事業者の選定などを行い、2024 年度から工事着手し、2026 年度から開業といった流れが考えられる。
- 駅前街区は、地権者の意向や土地区画整理事業のスケジュールによって影響するので明確なロードマップを示すことが難しいが、区画整理事業の進捗にあわせて活用方法などを検討し、開発等の機運醸成を図ってきたい。
- まちづくり活動については具体的内容を地域協議会で議論していくつもりで、市としても地域の想いを後押ししていきたい。
- 社会基盤整備はおよそ 10 年かけて進めていく。2024 年ころから順次供用開始とあるが、これは区画整理事業区域内の区画道路を少しずつ作りながら進めていくため、このような表現となっている。
- 鉄道高架や横新道の拡幅などはおよそ 10 年後の供用開始を想定している。
- あくまでも現時点のイメージや予定なので今後変更もありえるが、こうした取組みを並行して進めて、10 年後に全ての要素が揃っているのが理想と考えている。

(これまでのまちづくりの経緯)

- 当地区では昭和 60 年度に、篠路地区街づくり促進委員会の前進となる「篠路駅周辺活性化促進期成会」が発足し、早くから地域の方々がまちづくりに関心をもち、行政にご協力をいただきながらまちづくりの検討をすすめてきた。このときから駅周辺の整備や横新道の混雑解消を目的とした、社会基盤整備が望まれてきた。こうしたなか、H9 年度にはまちづくりガイドラインを、H13 年度にはまちづくり事業計画を策定した。
- H14 年度に篠路アンダーパスの開通、H16 年度に花畔札幌線（駅前団地本通～伏籠川間）の整備が完了し、H19～21 年度には駅西側で再開発事業が実施された。H25 年度には、H13 年度のまちづくり事業計画

を受けて、鉄道高架と区画整理を柱とした一体的なまちづくりを目指すため「まちづくり実施計画」が策定された。また同年にまちづくり戦略ビジョンにおいて、地域交流拠点として位置づけられた。

- H27年度に策定した「第2次都市計画マスタープラン」では、先行して取組を進める拠点に位置付けられた。
- こうした流れを受けて、まちづくりに関する検討・調査が活発化し、H28年度以降、ワークショップやアンケート、社会基盤整備の都市計画決定などを経てきた。そして、今年度から、今後、社会基盤整備が進む地区において、新たなまちづくりの方向性を示すためにまちづくり計画の策定に着手する。

(近年のまちづくりと地域の主なまちづくり活動)

- 篠路ではこれまでも地域の方々からたくさんのご意見を伺ってきた。篠路全体や駅周辺地区の将来像や方向性に関わるものとして、H28年の篠路白書、みんなの想い(参考資料1)やH29年のアンケートがある。駅周辺や市有地周辺に求められる機能に関わるものとして、駅前広場の在り方検討会議やH30年のアンケート(参考資料2)がある。
- 地域では、すでに様々な地域団体による多様なまちづくり活動が展開されている。
- 今回はゼロから議論するのではなく、これまでの経緯、検討などを尊重してまちづくり計画を作っていきたい。

(計画策定までの流れと検討委員会の役割)

- これまでのワークショップやアンケートなどによるご意見、地域の活動をもとに、まちづくり計画のベースになる議論の題材や計画の要素を市から提示する。これに対して検討委員会でご意見をいただきながら、必要に応じて修正を重ねて、素案という形にまとめ、また素案を修正していく、というサイクルで策定していく。今年度は3回の開催を予定しており、主に、駅前や市有地の利活用についてや、地域の意見を踏まえた今後のまちづくりの展開などについて、幅広い知見からご意見をいただきたい。パブリックコメントなどの手続きを経て、来年度中の策定を目指す。

(計画書の構成イメージ)

- 第1章で計画策定の背景、第2章でまちの現状、第3章でまちづくり方針という流れを想定している。
- 今回のまちづくり計画は、行政、企業、地域の誰かが主役になるのではなく、関係者全員の協働で進めていくものとして、関係者それぞれの役割まで踏み込んで議論できればと考えている。
- これらにつきましてはあくまでもイメージなので、これから皆様のご意

見をいただきながら、固めてまいりたい。

(検討委員会の内容)

- 本日の第1回目では、地区の現況とまちづくりの方向性を共有し、今後の検討事項について意見交換する。第2回目では、まちづくり重点エリアの方向性についてさらに踏み込んで意見交換するとともに、地域協議会での議論も踏まえながら、地域に必要な活動・取組について意見交換が出来ればと考えている。第3回目では、今後のまちづくりの展開についてと、地域みなさんが担える活動・取組とその担い手について意見交換できればと考えている。ここまでの3回で出たご意見を参考にしながら、地域のご意見も踏まえつつ、計画の素案としてまとめたい。
- 第4・5回目では計画のまとめと並行して、地域が担う活動・取組の具体策について提言・助言などもいただければと思う。

(上位計画)

- 「札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、都市空間創造の基本目標として、「都市基盤」「暮らし・コミュニティ」「産業・活力」「低炭素社会・エネルギー転換」に着目し、持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進めることを掲げている。こうした基本目標の実現のため、市内各地について都市空間の種別を決めて、それぞれの目指すべき方向性を定めている。篠路駅周辺は市内に17か所ある地域交流拠点の1つに位置付けられており、地域の生活を支える主要な拠点としての役割が期待されている。
- 都市計画マスタープランでは、都市づくりの理念と基本目標として、資料で示す内容を定めている。基本目標のなかで、特に篠路に関連しそうなものとしては、自然と調和したゆとりある郊外での暮らし、公共交通を基軸としたまちづくり、あるいは安全・安心といったキーワードも重要になると思われる。また、身近な地域として多様な協働による地域の取組の連鎖も掲げられている。総合的な取組の方向性として、「2多様な交流を支える地域交流拠点」に記載された内容や、「4地域特性に応じた一般住宅地・郊外住宅地の居住環境の維持・向上」に記載された内容は篠路でも大事にしていきたい。
- 立地適正化計画では、駅前エリアのあたりが集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域に位置付けられている。ここでは都市機能の集積、質の高い空間づくり、にぎわい・交流、環境配慮などのキーワードが掲げられている。市有地周辺は含まれていないが、駅前と連携しながら地区の魅力を高める機能を検討していきたい。

◇ 篠路駅周辺地区の現況
(事務局)

(人口)

- 札幌市全体としても篠路としても、人口は今後減少する見込み。
- 年少人口と生産年齢人口は減少するが、老年人口は増加する見込みで、高齢化の進行が予想される。
- 5歳ごとの人口の流出と流入は、市全体と篠路では異なる傾向を示しており、篠路では、20～29歳の流出が多く、5～14歳と30～44歳の流入が多いことがわかる。
- 篠路地域は郊外住宅地であるため、戸建住宅などを購入した子育て世代が流入する一方で、進学や就職により学校や職場の近くに転出する方が多いものと考えられる。

(地区周辺の主な施設)

- 医療施設は、小～中規模の施設が地区全体に分布している。
- 福祉施設は、市有地 A 街区を中心に「地域福祉モデルゾーン」として機能集積を進めてきた。特に駅東側には介護サービスに関する施設が多く集まっている。
- 商業施設は、東8丁目通や横新道、篠路通といった幹線道路沿いに多く、駅東側の駅前には少ない状況である。
- 保育所は徒歩圏内に適正に立地している。駅前エリアも東エリアも既存の認可保育所が近傍にあるため、新たな認可保育所の立地は考えにくい状況である。
- 小学校の児童数は、北区としては増加傾向にあるのに対し、地区では減少傾向にある。また、中学校の生徒数は、北区としても地区としても減少傾向にある。
- 住民の方が利用する公共施設としては、篠路出張所と篠路コミュニティセンターがある。
- 公園・みどりについては、大小さまざまな公園に加え、伏籠川や旧琴似川沿いの緑道など緑豊かな環境となっている。
- 道路網は、幹線道路が南北、東西に概ね 1km 間隔で整備されており、道路網の骨格をなしている。また、駅周辺と骨格道路を結ぶ役割を東西駅前通や花畔札幌線が担っている。今後、社会基盤整備が進むと、より交通は円滑化される見込みである。
- 公共交通は、駅の東西にバス路線が形成されており、都心の札幌ターミナルや、麻生駅、栄町駅と接続している。JR 篠路駅の乗降客数は近年増加傾向にある。

(用途地域)

- 用途地域について、駅前エリアは近隣商業地域に位置付けられている。また、東エリアは、市有地は第1種低層住居専用地域、第1種住居地域に位置付けられており、アークスやしまむらが立地するところは近隣商

業地域に位置付けられている。

(土地利用状況)

- 土地利用について、駅周辺の土地利用は90%以上が住宅となっており、住宅街としての位置づけが明確になっている。住宅以外の用途は、横新道や東8丁目線沿いを中心に店舗施設などが立地している。

(地区全体に関する地域のみなさんのご意見)

- H28年度のWSでは、地区全体や駅周辺地区が「こうあってほしい！」という想いを、将来像と機能像に整理し、「みんなの想い」として、取りまとめた。機能像は「住まいを豊かにする」「にぎわいをつくる」視点から「暮らし」を支えるまち、「まちの資源を活かす」「回遊性をつくる」という視点から「つなぎを紡ぐまち」、「土地利用や街並みを考える」「まちを活用する活動」の視点から「魅力を創造するまち」という3点にまとめられた。
- H29年度は地域住民を対象としてアンケートを実施し、WS参加者による「みんなの想い」と、その意見に大きな相違がないことを確認した。また、「みんなの想い取りまとめ会議」を開き、みんなの想いを実現させるために必要な取組などを検討した。これがきっかけとなり、ランターン祭りが駅前で開催されるようになった。
- H30年度には改めて、地区の方向性や求められる機能についてアンケートを実施した。要点として、駅周辺における施設や機能を考えるうえで、重要なこととして、「買い物環境の充実」「高齢者にやさしいまちづくり」「子育てしやすい環境づくり」が上位になった。

(現況の分析)

- ここまでの現況や地域のご意見を踏まえて、地域の「強み・活かしていくべき点」と「弱み・改善していく点」を分析し、今後のまちづくりを考えるうえで重要だと考えられることをまとめた。
- 「エリアの特性」では、「強み・活かして行くべき点」として、地域資源の豊富さ、神社の例大祭や歌舞伎、藍染などの文化、閑静な住環境、緑豊かな環境をあげた。一方で「弱み・改善していく点」として、生産年齢人口の減少・高齢化の進行や若い世代の流出、新しく移り住んできた住民や来街者に地域資源の魅力が伝わっていない点をあげた。これらから、「若い世代が住み続けたいくなる仕掛け」や「地域資源の魅力を共有・伝え続けること」が重要と考えられる。
- 「地域活動」では、強みとして商店街による活動や各団体の多様な取組、イベントがある一方で、今後の検討事項として、東口駅前広場など今後創出される空間をいかに活用するか考えていく必要がある。こうした取組やイベントを、単発のもので終わらせるのではなく、日常的な地域コ

コミュニティの場となるように考えていくことが重要である。

- 「施設・土地の状況」では、強みとして、各種の公共事業による基盤整備が進むこと、地区内に出張所やコミセンなど公共施設が充実している点がある一方で、弱み・改善点として、駅前周辺にも関わらず機能集積が進んでいない状況が挙げられる。これらのことから、地域交流拠点としての更なる利便性の向上が必要と考えられる。また、強みとして、幹線道路沿いにスーパーなどの買い物施設が多いことや、高齢者施設が多い一方で、弱み・改善点として、駅周辺の店舗数や賑わいの減少、市有地が低未利用、交流の場の少なさ、それからアンケートでのご意見などを踏まえる必要がある。これらのことから、にぎわい・交流の場の創出や、継続的に子育て世代の流入を促せるような、利便性の高い居住環境が必要と考えられる。

<質疑応答>

質疑なし

◇ まちづくりの方向性(たたき台)

(事務局)

(検討材料)

- 篠路駅周辺は「地域交流拠点」に位置づけられており、地域の生活を支える主要な拠点としての役割が求められている。
- 公共施設に関する市の整備方針について、H29年3月に「市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針」を取りまとめており、今後の財政状況の見通しなどから、「施設総量」の抑制や「総量規模の適正化」を図っていくこととしている。地域の方々から公共施設を望むご意見もいただくが、篠路地区は既に出張所とコミュニティセンターがあるので、新たに何か公共施設を作ることは難しいと考えている。
- 民間企業等の進出ニーズに関する調査について、現在計画されている社会基盤整備が完了して、基盤が整った際に進出が考えられるかという前提でヒアリングを実施した。また、これらのヒアリングは感触を掴むための調査であり、業種ごとに1,2社程度しかヒアリングを行っていないため、参考程度とお考えいただきたい。したがって困難と回答されたものも△と表記している。
- 駅前を対象とした調査については、高齢者向けの住宅はニーズもあり、事業採算性も確保できる可能性がみられたが、スポーツクラブやフィットネス、医療施設は関心が寄せられたものの、工事費が高騰しているなかで事業採算性の確保には課題がある、という結果が出た。全体的に駅前への進出ニーズは低い結果となったが、引き続き民間企業等への呼びかけを続けていくつもりである。駅前の機能を考えるうえでは、実現性という点も視野に入れて検討していく必要がある。

- 市有地を対象とした調査については、戸建分譲、ホームセンター、家電量販店、ドラッグストア、コンビニなどや、スポーツクラブ施設、温浴施設などはニーズがあるのではないかという意見があった。ただし、ヒアリングは用途地域による規制やその他法律の規制、事業採算性にとらわれずいただいた意見なので、ニーズが実現性に直結しているわけではない。
- 市有地、駅前に共通していえることとして、これらの調査は新型コロナウイルス感染症が発生する前の調査なので、コロナの影響により現在の状況が変わっている可能性がある。
- 市としては引き続き、民間企業等へのヒアリングを続けていくつもりである。

(篠路駅周辺地区のまちづくり方針の要素案)

- 第3章では、まず一番大元になる「基本理念・将来像」を先頭に、「まちづくりの方向性」「まちづくり重点エリアの方向性」「今後のまちづくりの展開」「関係者の役割」のような流れで構成できればと考えている。本日は、基本理念から重点エリアの方向性までのたたき台を示させていただき、のちに意見交換させていただきたい。
- まちづくりの方針の要素案として、大元になる「基本理念」とこれをかみ砕いた「目指すまちの将来像」で整理している。地域WSで取りまとめた「みんなの想い」から、基本理念として「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」、そして将来像として「暮らしを支えるまち」「つながりを紡ぐまち」「魅力を創造するまち」というキーワードを引用する形で検討してはどうかと考えている。

(駅前エリア)

- 現況、課題として、生活利便施設やレンガ倉庫などの地域資源が存在するが、駅利用者や地域の方が日常的に立ち寄れる場所が少なく、低未利用地が多い、また西側と比べて暗い印象があるという意見がある。最後の暗い印象は社会基盤整備により改善される見込みである。
- アンケート結果より求められているものは「買い物環境の充実」「高齢者にやさしいまち」「子育てしやすい環境」だった。
- このエリアに必要な視点として、駅前広場など基盤整備で創出される空間の活用と駅前としての魅力の向上が考えられる。また、望ましい機能としては、「駅利用者や近隣の方の利便性が高まるような機能」や「日常的な交流、滞在の場」が考えられる。

(東エリア)

- 現況として、すでに福祉施設や、学校、大型店舗、コミセン、パークゴルフ場など多様な施設が立地しており、集客交流のポテンシャルを持つ

ている。また、幹線道路に面しており車利用による広域アクセスが可能
なことがあげられる。

- アンケート結果より求められているものは「買い物環境の充実」「高齢者にやさしいまち」「子育てしやすい環境」だった。
- このエリアに必要な視点としては、すでにある施設や周辺環境への配慮や連携調和が重要だと考える。また、望ましい機能としては、「休日などに家族で訪れられる施設」や「若い世代を篠路に呼び込む施設・機能」が考えられる。

(地区の活動、イベント)

- 地区内では特定の場所にこだわらず、地域主体のまちづくり活動が今後も継続的に展開されることを期待している。ここで示しているのは現在の活動のほんの一例だが、様々な活動が展開されることで多様な世代が地域に愛着を持ち、住みやすい環境や地域のコミュニティを維持していければと考えている。

(まちづくりの方向性 (たたき台))

- 駅前エリアでは、「交流・滞在が可能な環境づくり」や「駅周辺の利便性・魅力の向上」により、地区の中心として日常的なコミュニティの場や賑わいの形成を目指していきたい。
- 東エリアでは、「住みたくなる・住み続けたくなる機能の獲得」「周辺環境との連携・調和」により、子育て世代を中心とした多様な世代の流入増、流出減に資する活用を目指していきたい。
- 地区全体としては、現在地域で取り組まれている多様な活動・イベントを大事にして、今後こうした活動を持続させていくことが重要である。
- 今後、まちづくりの展開を考えるうえでは、他の拠点のように駅前に集中してまちづくりを進めるのではなく、3つのエリアを地区の核とし、面として機能がバランスよく配置されるようなまちづくりを考えていきたい。また、他の拠点は「公共交通を中心として歩いて暮らせるまちづくり」を押し出しているが、篠路では、自家用車などでの移動も主要な移動手段と捉えて方向性を考えていく必要があると考えている。

◇ 第1回地域協議会でのご意見

(事務局)

- 「篠路地区の現況や期待すること」から意見交換を始めて、「今後の篠路のまちづくりに必要だと思うこと」「自分たちや地域にできると思うこと」の順でご議論をいただいた。

(篠路地区の現況や期待すること)

- 地区全体に関するものとして、「人口流失をさせない取り組みが必要」、

「住宅地でなにかを作ることは難しい」、「イベントの住民の認知にムラがある」、「自然豊かな景観・機能を残すことが重要」、「篠路駅周辺に住んでいる人は篠路に住んでいるという意識が薄く、理由として中心地が分かりにくくシンボリックなものがない」というご意見を頂いた。

- 駅前エリアに関するものとして、「今は食堂や商店もなくどっちつかずの駅前となっている」、「身近なスーパーが必要」、「若い世代に入ってもらうための住宅が必要で共同住宅も視野に入れるべきではないか」というご意見を頂いた。
- 東エリアに関するものとして「市有地の活用案として温浴施設があってもよい」、「西エリアに銀行や医療が立地しているが東エリアは差別化して異なる用途がきてもよい」、「カフェなど集まれる場所が欲しい」、というご意見を頂いた。
- その他の事項として、「10年後に事業が完成した際に、既に高齢化が進んで状況が変わっている篠路をどのように次の世代に渡していくのか考えていくことが大事」、「駅前の土地利用については地権者の考え方を抑えた上で議論すべき」というご意見を頂いた。
- 傍聴者アンケートからのご意見として、「まちづくりの検討理念に『誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち』があるが、そのためには土台に安全・安心が入ると思う」、「女性、若者の仕事場の確保、起業の場が必要」、「駅前エリアの土地有効活用として、小さな商業エリア、戸建エリア、老人施設エリア、公共施設エリアなど指定して街づくりを計画していくのも良いかと思う」、「コミュニティをどのようにつなごうとしているのかよく分からない」というご意見を頂いた。
- 議事運営に関するご意見のため掲載していないが、「検討を進める際に若い世代を巻き込みながら進めてほしい」というご意見を頂いた。

(今後の篠路のまちづくりに必要だと思うこと)

- 「暮らし」については、「イベントを大々的に行える場所が欲しい」「戸建てを市有地に埋めることはよくない」、「公園的な空間にキッチンカーがきてもよい」、「高架下等にコンビニやスーパー的な小さな機能があるとよい」というご意見を頂いた。
- 「つなぎ」については、「今後、事業が進むなかで渋滞や南北の分断が解消されることが重要」、「家族で使える温浴施設やラーメン村などが望ましい」、「いろいろな団体が順次使える広場」、「駅の高架化だけでなく、東西の行き来を生み出すような仕掛けが必要」、「伝統や文化を伝えるスペースが望ましい」というご意見を頂いた。
- 「魅力」については、「パークゴルフ場をスノーフェスティバルで活用しているように、利用できるところから利用していくことが必要」、「暗いという印象も、昭和の街並みや赤レンガ倉庫のある景色など逆にポジティブに捉えて強みとして活かすことが必要」、「地域の中心・シンボルと

しては篠路神社が思い浮かび、そこをきちんと情報発信していくことが必要」、「実際に住んでいる方の想いとしてエリアで生活利便性が整っており、その特徴を強化することが必要」、「地域の方が集える場所が必要」というご意見を頂いた。

(自分たちや地域にできると思うこと)

- 「つなぎ」で「今、子育てや高齢者のイベントをしている。それはこれからも継続してやっていくべきだとおもっており、助成金など支援体制があれば何か考えると思う」、「魅力」で「情報発信力が乏しいため、SNSなど若者向けの発信ツールも有効活用するなど、情報発信を継続していくことが必要」というご意見を頂いた。
- まちづくり計画の完成形では一番右の列の「地域や自分たちでできると思うこと」の部分が大事になるので、第2回目以降でこの部分の議論を深めていきたいと考えている。

<質疑応答>

(副委員長)

- 私は駅東側の区画整理事業地区の町内会長で、地区の皆様の顔を一番拝見している立場だと思っている。なぜ篠路は発展していないのか。今空き地のところ(市有地)は、ずっと塩漬けの状態であった。逆に、これから良い街になるための動きを実行しやすいとも言える。さびれている印象を持たれるが、そうではないと私は思っている。篠路の発展を願っている、これから検討委員会でいい街になるように皆さんからご意見を頂ければと思う。

(委員長)

- 本日少し早めに来て、まち歩きをした。非常にいろいろな魅力があるまちだと思う。市有地もこれからの有効活用という意味では、非常に可能性のあるものだと思う。委員の皆様のご意見を頂きながら良い計画を作りたい。

(委員)

- 様々な地域活動が積極的に行われていると見受けたが、計画づくりの過程で具体的な地域活動をどのように発展させていく想定なのか伺いたい。まちをつくっていくのは行政だけではなく、地域の方がどう愛着をもって関わっていくのが大事だと思うし、幅広く地域を巻き込んでいくことが重要だと思う。

(事務局)

- いまある地域の活動に加えてさらなる動きをつくるためには担い手の発掘が必要だと考えている。どう担い手を発掘していくか、地域の方と一緒に考える場を地域協議会や検討委員会とは別に設けることを検討していきたい。若い人が入りやすい場を地域と一緒に作っていき

たい。

(委員)

- ・後からだ地域活動に入るのは難しい。既に活動されている方の知見も大事にしつつ、新しく活動に取り組む方を受け入れてくれる場もあると良い。10年後を見据えて考えていきたい。

(委員)

- ・3年前からいろいろな話が出ているが、10年後は超高齢化している地域。アンケートを見ると7割は車利用。駅周辺をにぎわいのあるまちにするには駐輪場や駐車場が不可欠だ。篠路駅前の開発は個人では不可能。民間企業に開発参画してもらう必要がある。

○ 意見交換

- 計画策定に関する視点について
- 地区の現況、方向性について

(委員長)

- ・2回目以降に向けて望ましい視点や必要な情報などはあるか。意見交換のポイントとしては、まちづくり計画の柱として示された「駅前」「市有地」「まちづくり活動」についてご意見をいただきたい。

(委員)

- ・協議会でのご意見は地域の正直なご意見だと思う。一方で企業の進出ニーズに関する資料もあるが、地元の方の気持ちと企業側の投資の接点が見えていない。地域の需要がもう少し具体化されていくと、事業者側の事業性の検討に結びつくのではないか。

(委員長)

- ・企業は今の状況に対して進出意向を示しているにすぎないのではないか。どういう環境があれば、どういう地域であれば事業者の進出可能性が高まるのかということも聞けると良いのではないか。

(事務局)

- ・地域協議会の第1回は広い意見であったが、第2回はもう少し踏み込んだ話をしていきたい。企業ニーズや市場性に関する調査も並行して進めていきたい。新しい情報があれば、随時検討委員会の場に情報提供していきたい。

(委員)

- ・地域のニーズや現状はよく整理されていると思う。
- ・JRの鉄道高架は大きなインパクトを与える。野幌など他の地域で既に高架化しているところがある。高架化によってどう影響があったのか、高架下がどう活用されているのかといった情報があっても良い。せっかく高架化したのに柵で困うのではなく、活用することでまちが一体化するのではないか。そのような参考資料があると良い。

(委員長)

- ・先行事例として調べられる範囲で用意してはどうか。以前、地元でJRさんと連携してヘルシーウォーキングという取組みを行ったことがある。各ポイントで、地域の資源や文化を知ることができたり、地域のおもてなしを受けられるイベントで、結構な数の参加者だった。野幌といえば、EBRI（エブリ）も参考になるかもしれない。

(委員)

- ・商業施設含めて誘致するという事になれば、当社であれば、人口と年間稼働率を見て、出店可否を検討する。そう考えると人口を増やさなければならない。私が住んでいるのは昭和40年代後半に整備された街。周りがどんどん歯抜け状態になって、空き地化が進行している。そのような状況は10年後の篠路であり得ると思う。更地になったところに、人口をどう増やすか、いかに人口を減らさないかといったところを本気で具体的に考える必要がある。

(委員長)

- ・空き家や更地をいかに入れ替えながら進めていくか。まちづくりは長期的な視点が必要。

(副委員長)

- ・人口を増やすには、容積率を上げる必要があるのではないかと。現在は近隣商業地域で容積率200%。これでは人が増えない。
- ・札幌市の（篠路における）公共交通の体系は縦型（南北）でヨコ（東西）をつなぐ交通が少ない。交通体系の充実も考える必要がある。

(委員長)

- ・きちんとした計画が出来れば用途地域の変更も不可能ではない。
- ・交通は一つのキーワードになると考える。自動運転などの新しい交通の仕組みも含めて、真の交通拠点となるような考えも必要かもしれない。

(委員)

- ・篠路地区はバスの本数が非常に少ない。茨戸地区の方も、篠路出張所に来る交通手段が非常に弱く、北区役所を利用している。バス事業者と連携して、人の出入りを増やしていかないと篠路の活性化は難しいのでは。

(委員長)

- ・バスやその他交通機関も含めてネットワークを考える必要がある。

(委員)

- ・前回の協議会の中で市有地の暫定利用の希望が示されている。地域活動のために市有地を活用することは出来ると思うが、市有地以外にも「あ、ここ使えるのではないかと」という部分を見つけて積極的に活用していくことが大事。私はキッチンカーを受け入れている側であるが、最近キッチンカーフェスといった動きもある中で、そういうものと地

域活動をつなげて良いのではないかと。

(委員)

- 交通の問題や容積率とか人口を増やすための住宅という話があったが、その前に空間計画としてどのようにしていくのか、イメージをつくる必要があるのではないかと。第1回地域協議会で「篠路に住んでいるという意識が薄い、シンボリックなものがない」という意見がある。先日、北区役所に行った際に、篠路も含め北区の歴史が紹介されている展示パネルを見たが、単体のものでシンボリックなものがあるけども、そこまで強くアピールしているものでもない。歴史を感じさせるものと、ランタンまつりなどの地域のイベントが、新しい高い建物が密集する中でやりたいのか、もう少しゆったりした1~2階の低層の建物や歴史的な資産がある中でやりたいのか、歴史的な資産やイベントがオーバーラップしていく中で、将来どのようなまちの将来像になるといいのかというイメージを作っていくことが大事である。エリアによって強弱を考えるなどメリハリをつけて、まちの計画の全体像を作る必要がある。

(委員長)

- まさにその通りである。交通や移動も含めて、どういう街にしたいかといった空間像から構築していかなければならない。

(副委員長)

- せっかく歩道を広げても雪捨て場になってはもったいない。雪の対策も計画に入れてもらいたい。

(委員長)

- 対策だけではなくて、イベント等どのように活用するとよいのかも考えていくことが大事だと思う。
- 旧琴似川のコミュニティガーデンが非常に魅力的に感じた。駅前エリアと東エリアの間を持つ空間。そこからつながる緑道も非常に良い空間になると感じたが、このあたりがより良いものになるような意識も計画に盛り込んでどうか。

3 おわりに(事務連絡など)

(事務局)

- 本日頂いたご意見については、次回の資料や議事の参考にさせていただきます。
- 次回は12月を予定している。
- 傍聴については、シノロナビにて情報提供する。